

考古地磁気学データが示す日本の地磁気永年変化 Geomagnetic secular variation in Japan from archeomagnetic data

畠山 唯達^{1*}, 渋谷 秀敏²

HATAKEYAMA, Tadahiro^{1*}, SHIBUYA, Hidetoshi²

¹ 岡山理科大学情報処理センター, ² 熊本大学大学院自然科学研究科

¹Information Processing Center, Okayama University of Science, ²Earth and Environmental Sci., Kumamoto Univ.

数十～数百年スケールの詳細な地磁気変動を調べるために、我々は日本における過去 2000 年間の考古地磁気データを整理して、新しいデータベースを作成した。そのデータベースから、各年代における地磁気平均方位を割出し、それを接続する地磁気永年変化モデルを試作したので報告する。AD1(0)～1850 年間に日本における地磁気方位は平均の周りを約 20 度の半頂角の範囲内で変動する。この間に、変動方向の大きな変化が 6 回あったと推測される。データの信頼性が高い、500 年、700 年、900 年、1150 年および 1600 年には特徴的な地磁気変化があったのではないかと推測される。とくに、1150、1600 年の変化は非常に急激な方位変化がみられ、現在観測されるジャークのようなものかもしれない。後者のジャークは韓国での考古地磁気の予察的データからも推測されており、東アジア地域で普遍的に見られた可能性がある。

一方で、この地磁気永年変化モデルを用いて未知の時代の試料について年代推定ができるかも議論したい。

キーワード: 地磁気永年変化, 考古地磁気, 地磁気変動

Keywords: geomagnetic secular variation, archeomagnetism, geomagnetic changes